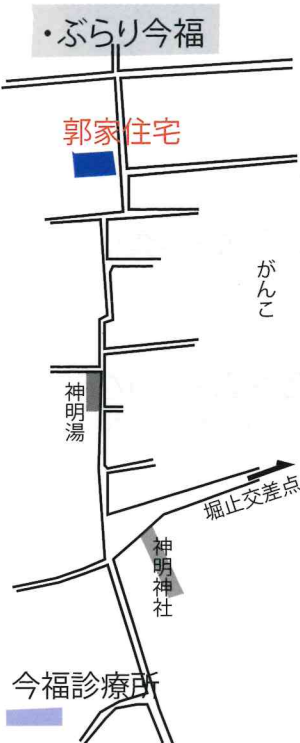


紀の国ほっとだより

発行 紀の国ほっとクラブ

〒641-0042 和歌山市新堀東2-2-2「ほっと生活館しんぼり」2号館



鳴海祥博撮影

郭家住宅(旧郭百甫医院)登録有形文化財

写真は1877(明治10)年建設の擬洋風建築の洋館。郭家は代々紀州藩の藩医を務めたが、七代目郭百甫は西洋医学を学び、1874年には和歌山医学校兼小病院の設立議員として、その建設に尽力した。その後、この地に民間医院として郭医院を開業、八代目が没する1928(昭和3)年まで医院は存続。〇〇流医術から医術開業試験制度への転換期に和歌山の医学・医療を支えた功績は大きく、郭家住宅はその歴史を象徴するモニュメントといえるでしょう。

洋館は木造二階建、寄棟造、棧瓦葺で玄関ポーチとベランダがあり、待合室と看護師詰所・薬局に使われた。これに隣接した診察棟は木造平屋建の和風建築。これらと居住棟の主屋・離れの他土蔵・外便所が登録されています。

洋館は擬洋風建築としては全国でも古いもので、江戸末とみられる主屋とともに建築物としての価値が高く、重要文化財指定も近いといわれています。通常は外観の見学となりますが、内部公開もおこなわれています。ニュース和歌山のイベント情報をチェックしてください。「登録有形文化財郭家住宅調査報告書」和歌山県教育委員会 令和3年

総代会に関する公告

総代会を下記のとおり開催いたします。

記

日時：2024年6月16日(日)
10:30～

場所：ほっと生活館しんぼり
2号館1階

以上

総代会は通常年1回開催し、その年の活動方針や行事、予算などを話し合う生協の一番大きな意思決定の機関です。

日・祝日も診療、地域のかかりつけ医に

今福診療所の診療時間と担当医師

第2日曜日は休診、徳田医師は整形外科です。

第4日曜日は予約制で物忘れ外来を開設しています。

診察時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	田中	田中	田中	田中	阪口	木村	輪番
火曜 13:30~14:30	×	徳田	×	×	×	×	×
土曜 15:00~17:00	×	×	×	×	×	木村	×
17:30~19:30	田中	田中	×	田中	田中	×	×

連休中の診療のお知らせ

4月28日 (日) 9:00~12:00
4月29日 (祝) 9:00~12:00
5月3~5日 (祝) 9:00~12:00
5月6日 (休) 9:00~12:00

紀の国医療生活協同組合

今福診療所 : 和歌山市今福2丁目1-16
TEL 073-425-2775

ほっと生活館だより ほっこりする出来事を紹介するコーナーを設けました。



はったい粉

エピソード1 はったい粉

「はったい粉」? 60才未満の方はご存じないでしょうね。
2月のとある日曜日、ほっと生活館3号館3階での出来事です。
どんなことがあったのか、東山マネージャーに伺いました。

「はったい粉、別名麦焦がし。昭和50年頃までは、子供のおやつとして重宝されてました。砂糖を加えお湯でのばし、練り菓子として4人の利用者様に食べていただきました。

正直なところ、決して美味しい!!とは言えないのですが…利用者様の娘世代である私たちが、子供の頃よく食べていた『はったい粉』は思い出の味なのです。」

「おいしいっ!」「粥に混ぜて食べていた人もいたな」「懐かしいわ」「昔よう食べてたわ」
声に出さないがギョッと目を閉じてパッと笑顔!、と利用者様は思い出も味わってくださったようです。東山マネージャーありがとうございます。

私(編集者)も、冬場のおやつによく食べたのを思い出し、スーパーで購入しました(写真)。一口食べると、当時の情景が走馬灯の如く浮かんできます。後悔先に立たずです。

紀の川の流路の変遷



国土交通省和歌山河川国道事務所HP掲載図をトレース・一部加筆



明治43年測図 要塞近傍図 国土地理院の一部に加筆

減災のために一紀の川は悠久の流れ?

紀の川の流路は一定せず、おおよそ左図のような変遷を辿ったと考えられています。大正12年から30年余の年月をかけた連続堤防が完成するまで、下流の流路は海と川のせめぎあいに変化していたのです。

古代の紀の川本流は和歌浦湾に注いでいて、今の和歌川がその名残だそうです。聖武天皇が見た紀の川はこの流れだったのでしょうか。中世になると、今の水軒川に相当する流れに変化したようです。

現在の河口が形成されたのは、明応7(1498)年の大地震による津波で、河口を塞いでいた砂丘が決壊したため、と考えられています。この地震の被害記録は東海・関東には多くありますが、西日本には殆どなく、被害も軽微と考えられていました。

ところが、紀州藩の編纂した「紀伊続(しょく)風土記」に、明応年間の津波で和田浦(土入川に面した港町)が壊滅し、住民・寺社は湊地域に移転した、との伝承記事がありました。やや心もとない史料ですが、戦国時代の西日本では貴族や僧侶の日記などは遺りにくく、他に史料が無いのだろう、と考えられています。

明治43年の地図を見ると、決壊した砂丘が再び形成されつつあることがわかり、この説は納得できます。紀の川の兩岸に湊の地名があるのは、かつては一つの地域であったためでしょう。和歌山市域にも5m超の津波がやってきた可能性が高い、ということになります。

南海地震への備えに、歴史に学ぶこともあるようです。

組合員と登録された同居家族の方の医療上の特典 ぜひ御利用ください

1. 和歌山市が行う、胃ガン検診、肺ガン検診、大腸ガン検診が無料になります。(要予約) 特定検診時に一緒に行うのがおすすめです。
2. 骨密度を無料で測定できます。(要予約)
3. 任意で行う各種予防接種の費用が割引になります。
4. 各種文書料が無料または半額になります。

- 診断書や証明書など、一般的な文書料(3,000円以下)は無料
- 生命保険請求用の証明書など、3,000円を超える場合は半額

予約・お問い合わせは今福診療所まで

音楽療法取材しました 3月15日の昼食後です。

月に一度、和歌山音楽療法研究会の三人をお迎えし、新堀デイサービスで開催しています。



はじまり・はじまり ピアノに合わせて指や体をほぐします

歌は「どこかで春が」から



ゲー・パー・チョコキ、歌いながら組み合わせをかえてゆきます 親指・小指、リズムを取って
「どじょっこ・ふなっこ」、「春よこい」とこなしてゆきます 膝も開いて手をパチリ



「うれしいひなまつり」でバチをもち、「ももたろう」では色別のベルをならします



「高校三年生」・「青い山脈」と古めの昭和歌謡で、盛り上がりは最高潮、マラカス・タンバリンなどリズム楽器をならします 最後は「揚げば尊し」でおごそかにしめて1時間、お疲れさまでした

全8曲、歌いながら歌詞とリズムに合わせて身体を動かす、けっこう複雑な指の組み合わせも操りました。懐かしい歌になると色々な思い出や感情がよみがえります。

曲のつながぎに入る講師さんのお話が面白い。当生協スタッフとの世代間ギャップネタ、若いスタッフたちは、「揚げば尊し」を歌ったこともフォークダンスの経験もないそうです。

フォークダンス!!心ときめきましたよ。丸刈りでも思春期真ただ中。手握れるんだもん。オクラホマミキサー、あと五人で気になる彼女、なんだよ曲が終わっちゃったよ。そんな世代です私。

マスク越しに利用者様の笑顔がこぼれてましたよ。それから、音楽療法中は空席になってる机を入念に除菌しているスタッフがいました。スタッフの秋庭さんからお聞きした「笑顔で安心してお過ごしいただきたい」との想いは、日々みんなで実現してるようです。

職員の表彰

当生協の職員が表彰されましたので、お知らせします。

・田中良示理事長が「令和5年度消費生活協同組合(連合会)等厚生労働大臣表彰」を受賞しました。業務多忙につき東京での表彰式は欠席しましたが、功績の概要として次の事項が示されています。「紀の国医療生活協同組合の理事や代表理事として、また医師としても同生協内で中心的な役割を果たすなど、地域医療の発展に尽力した。

在宅介護を支援する仕組みを生協内に整えるとともに、認知症の診断・診療にも尽力し、また生協として成年後見人制度の活用を事業化し、高齢者の権利擁護に携わるなど、長年にわたり組合員及び地域住民の医療と福祉の充実に貢献した。」

当生協を1985年に設立、1989年には今福診療所の開設とデイケアを開始するなど、地域の医療と福祉の充実に先駆的な役割を果たしてきたことが高く評価されたといえます。

・ほっと生活館勤務のお二人の職員が、和歌山県生活協同組合連合会より「20年永年勤続表彰」を受け、その功勞に対し表彰状と記念品が贈呈されました。

松田美津代さんには1994年4月より、南畑小百合さんには2001年9月よりご勤務いただき、ともに経験豊富なエキスパートとして有料老人ホームや訪問介護の現場でご活躍頂いております。

当生協の理念実現は、職員のマンパワーがあってこそです。お二人の長年のご尽力に感謝致しますと共に、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(公) 社団法人 認知症の人と家族の会 和歌山県支部の活動報告

～認知症とともに生きる～映画「オレンジ・ランプ」上映会を開催しました



令和6年2月12日(祝)に紀南文化会館、2月18日(日)には和歌山県勤労福祉会館プラザホールで開催され、和歌山市会場では映画の企画・プロデュースをおこなった山国秀幸さんによるトークショーもおこなわれました。

両会場ともたいへん多くの方のご参加をいただき、「認知症とともに生きる」ことが社会の重要なテーマであることを改めて実感いたしました。

映画は、39歳のときに若年性アルツハイマー症と診断された丹野智文さんをモデルにしたものですが、丹野さんは、診断後も勤務を続けながら、講演活動や「おれんじドア」実行委員会代表を務めるなど、社会活動にも注力されています。

上映中は感情移入が続いてしまう感動的な映画でした。丹野さんの診断後の生活は、ご本人の強い意思の他、ご家族、職場、地域の人たちの理解があつてのうえで、忘れられないシーンがありました。フットサル仲間が「お前が俺たちを忘れても、俺たちはお前を覚えているぞ」という場面です。

ともに生きる地域社会がどれだけ大切かを示していると思います。このことはトークショーで山国さんも強調しておられました。「だれもが安心して認知症になれる社会に」ですね。

まだご覧になられていない方は、機会があればぜひご鑑賞ください。



和歌山市会場の様子

お知らせ

第40回 認知症の人と家族への援助をすすめるー全国研究集会in和歌山ーが開催されます

日時: 2024年10月20日(日) 10:00 ~15:30

会場: 和歌山城ホール

丹野智文さんによる講演も予定していますので、是非ご参加ください。

(公社) 認知症の人と家族の会和歌山県支部は、認知症の人と家族の交流の場の提供や公的サポートの窓口業務をおこなっています。お気軽にご相談ください。

〒641-0042 和歌山市新堀東2-2-2 ほっと生活館しんぼり内

TEL073-432-7660